

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

CONTENTS

■「エコラボはーと・しが～通い箱プロジェクト～」	1	■REPORT	6
■2007年度 滋賀グリーン購入ネットワーク 通常総会・講演会	2	知事懇話会／グリーン購入セミナー／グリーン購入実践プラン	
■エコ情報室 米国のアル・ゴア前副大統領が、自ら企画・出演する話題作！ 映画「不都合な真実」あなたは、もうご覧になりましたか？	4	■エコに学べ ヤマト運輸株式会社	7
		■リレートーク 株式会社琵琶湖ホテル	8
		■エコなおしらせ	8

「エコラボはーと・しが～通い箱プロジェクト～」 環境+福祉のCSR活動に参加しよう！

「エコラボはーと・しが」は、エコロジーとハート（福祉をイメージ）をコラボレートした滋賀発の事業であることを意味するプロジェクト名です。

■ダンボール箱無しのコピー用紙を 地域の共同作業所からお届け



グリーン購入評価手法研究会では約3年前より、容器・包装ごみ削減を目的とした「通い箱」による商品流通マーケット構築について検討してきました。最初に流通させるのは、どんなオフィスでも使用するコピー用紙が

良いと考え、さらに、その運び手を地域の共同作業所の方々に担っていただくことで福祉にも貢献するプロジェクトとして、2007年6月にスタートさせました。共同作業所のとりまとめ役として滋賀GPN会員である（社）滋賀県社会就労事業振興センターが事業を実施し、当ネットワークは広報活動等にて支援させていただいている

■新たなCSR活動、社員の意識改革

持続可能な社会を構築するために企業のCSR活動が求められる中、コピー用紙を月に20冊購入するだけで「地球温暖化防止」「障がい者の雇用機会創出」という活動に取り組むことができ、社員の意識向上にもつながる「エコラボはーと・しが」に、ぜひご参加ください。

<基本ルール>

契約数量（基本20冊）を毎月1回、地域の共同作業所より配達（※20冊以下の配達をご希望の場合も相談に応じます）
A4サイズ 500枚×5冊 税込価格1,863円
(※価格は変更になる場合があります)

エコラボはーとのコピー用紙を購入すると…

毎月20冊の購入で約1,200gの容器包装ごみ削減！

障がい者の雇用機会創出に貢献！

<お問合せ> (社)滋賀県社会就労事業振興センター

TEL : 077-566-8266 FAX : 077-566-8277

配達に来てくれる作業所の方は、とても礼儀正しく明るく挨拶してくれます。お陰様で社員の意識が随分変わったように思います。コピー用紙を切り替えるだけでCSR活動に参加できるのが良いですね。



参加企業からの
メッセージ

ミドリ安全滋賀
(株)取締役営業部長
横山浩一さん



(株)平和堂 環境推進室
西塚哲夫さん

製品がグリーン購入品であることに加えて、ダンボール容器の削減と障がい者の雇用促進も兼ね備えた良い事業になったと思います。より多くの方に知つてもらい、参加者が増えることを期待しています。

2007年度 滋賀グリーン購入ネットワーク 通常総会・講演会

〔開催日〕2007年5月23日（水）

〔場 所〕滋賀県厚生会館 大会議室（大津市）

当団体は136名にご参加いただき、総会における審議事項については満りなく出席会員の皆様の承認を得る事ができました。続いての講演会では同志社大学の郡嶋教授、イオンの上山様にお話いただいた後、土屋代表幹事のコーディネートでフロアトークを行いました。その一部を紹介します。

■基調講演 「循環型社会構築の現状と課題」

これまでの循環型社会の「循環」とは、大量生産、大量消費、大量廃棄のサイクルの中で、大量廃棄だけを抑えればいいというリサイクル中心の事後的な処理方法が重視されてきました。しかし、これからは動脈（生産と消費）の中で大量生産のあり方を考えることが必要です。できるだけ「モノを作っている上流」で事前的、予防的な対応をしていくことが、新しい循環型社会の考え方ですから、リサイクル市場の整備、リサイクル商品の拡大に影響を与えてきたグリーン購入法には大きな意味があります。モノの「所有」にこだわらず、サービスや機能を売るという「サービサイジング・ビジネス」に転換していくことも重要です。一昔前、私たちは錢湯を共有していましたが、現在では車を共有し合うカーシェアリング、蛍光灯ではなく「明るさ」という機能を売るビジネスも始まっています。

また、環境と福祉の並立ということも大切です。例えば家庭の廃食油をデイケアセンターでお年寄りといっしょに精製し、それを送迎車の燃料にするなどの取り組みは、環境に優しいと同時に人にも優しい取り組みとなります。

フロアトーク

フロアトークでは、お二人の講師への会場からの質問を交えながら、環境と経済に福祉を加えた社会的ルールのあり方、環境保全に取り組む上での生物多様性に対する考え方などについて議論されました。総会で新規入会会員として挨拶されたラブリーシステムイン 竹中代表取締役の「できる事をすればいいのではなく、するべきことをしなければいけない」という言葉が話題になりました。

フロアトークの後半、話題が「消費者の皮膚感覚」「子どもたちの未来を考える女性の感覚」などに移った頃、駆けつけた嘉田由紀子滋賀県知事にも加わっていました。嘉田知事は「経済活動でサービスを受ける意思決定のかなりの部分が女性。もっと社会の経済活動



同志社大学 経済学部教授 郡嶋 孝さん

これらを行政が全てやるのではなく、企業や市民が自らの問題として社会的な課題に取り組むことが必要です。企業は自分の問題として社会的な課題に取り組むことが必要ですし、

市民のCSRはコミュニティービジネスと考えます。福祉団体と企業が協力して、ゴミ問題と雇用問題を解決していくような、環境と経済の両立からさらに福祉を加えたモデルができればと考えています。

滋賀県のグリーン購入運動が量的なものから質的なものへの新しいビジネスの展開、環境に優しく人にも優しい展開をされることを願っております。



の中枢に女性が入るために、次世代がもっと意思決定できる経済活動を作りあげていくためにも、グリーン購入活動は最先端の活動になると思う」と熱く語ってください、「環境問題を解決するためのひとつの柱が皆さんのグリーン購入であり、グリーンな暮らしです。皆さんからご提案いただいて、もっと滋賀から発信していただきたいと思います」とエールをおくってくださいました。

■基調報告 「グリーンコンシューマー拡大に向けたイオンの環境経営」

イオン株式会社 グループ環境・社会貢献担当 上山静一さん

イオンでは「地球温暖化防止に関する基本方針」に基づき、2010年にはCO₂排出量を1990年より6%削減することを約束しています。

具体的には、商品に関して安全・安心・正直にこだわって開発した「トップバリュー」の売り上げを3.4倍にし、商品の開発方法、運び方、包装材の植物由来素材への切り替え、エコストアの展開、レジ袋のリユース・リサイクルなどが挙げられます。

イニシャルコストが高くつるので、反対意見も当然あります。しかし、何のためにイオンとしてビジネスを行っているのか、従業員がどう思うのか、を徹底的に考えたとき、やはり挑戦すべきだという結論になります。それを地域の経営者にフィードバックするように提案していくのですが、単にトップダウンではスマートには行かず、毎日が葛藤、戦いです。大きな味方となるのは、何と言っても「地域社会からの支持」です。

わが国における地球温暖化に対する動きが遅く、京都議定書はこのままでは達成できないと思われます。当然、目標の追加、政策の変更を要求されることを企業としてどう捉えるかが問題です。今、思い切って大きく変える挑戦をしなければなりません。

～総会・講演会にご参加いただいた会員の皆さま、長時間にわたり、ありがとうございました。～

（筆：ダイキン工業／浅井、草津市役所／岡本）



対策が1年遅れると、後で大変なツケを負うことになると想っています。環境負荷を減らすことと生産性を向上させるビジネスプロセスをつくることが、勝つためには必要です。そのために様々なことを根本的に変えることが必要であり、それが新しいビジネスモデルを見出すチャンスになります。企業がどう認識するか、どう社会的に価値あるものを生み出し、市民に納得していただけるかが勝負だと思います。結果的に企業価値を上げ、社員がプライドを感じられるようになれば、成功だと思います。

他府県の地域ネットワークからのメッセージ

今回の総会・講演会には、宮城、京都、九州の各地域ネットワークと埼玉GPN設立準備会の皆さんにもご参加いただきました。滋賀GPNの総会に参加されたご感想を、お二人の方に伺いました。



九州グリーン購入ネットワーク・福岡
事務局長 荒木正信さんより



みやぎグリーン購入ネットワーク
事務局 古内昭子さんより

組織力を含め、各々の会員団体さんの「滋賀GPNは自分達で作る」という意気込みと行動力に圧倒されました。会員も事務局も、お互いの立場を尊重し、お互いが活動に積極的に携わる事が重要だと、改めて実感いたしました。環境と福祉とをリンクさせたコピー用紙の通い箱プロジェクトなど、参考になると感じた活動が多数ありました。九州GPNは声をあげたばかりです。滋賀GPNを参考にオール九州で活動を推進していきます。お互いの地域で地球環境保全団体に影響あるセクターとして、活動を実践をしていきましょう。先輩である滋賀GPNの益々の躍進を祈念致すとともに、九州GPNへのご支援ご指導をお願い致します。

初めて滋賀GPNの総会に参加させていただきました。みやぎGPNでは総会がありませんので、歴史ある滋賀GPNの総会にとても興味がありました。幹事の皆さんのが司会進行、事業等の報告をしている様子を見たところ、自分達のネットワークだという意識の高さに感心しました。また、嘉田滋賀県知事が参加されたことに驚きました。普通では考えにくいことです。続く交流会では、滋賀県庁の方を含め行政職員の参加が多いことに感動でした。滋賀GPNが地域で理解されていることが伺えます。交流会では多くの方と知り合って、とても楽しい一時でした。みやぎGPNでも来年はこのように総会・交流会を開催し、会員との交流を図りたいと密かに思いました。

エコ情報室

米国のアル・ゴア前副大統領が、自ら企画・出演する話題作！

みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



映画「不都合な真実」あなたは、もうご覧になりましたか？

長年、環境問題に取り組んできた米国のアル・ゴア前副大統領が地球温暖化の実態を解説し、世界に警鐘を鳴らすドキュメント映画「不都合な真実」。米国アカデミー最優秀ドキュメント賞受賞でも話題になりました。衝撃的な映像とゴアさんのユニークな語り口で地球温暖化についてわかりやすく解説されるので、予備知識がないままご覧いただいても地球温暖化問題を理解していただける内容です。

■「不都合な真実」の内容を、少しご紹介すると…

～この映画は、アメリカ前副大統領のアル・ゴア氏が半生を捧げて伝える人類への警告である～

人類にとって、ただひとつの故郷である地球。その地球が、今、温暖化により最大の危機に瀕していると言われている。キリマンジャロの雪は解け、北極の氷は薄くなり、各地にハリケーンや台風などの災害がもたらされる。地球体系が激変し、植物や動物たちは絶滅の危機にさらされている。しかし、これらは多くの政治家たちが耳を貸さない“不都合な真実”なのである。

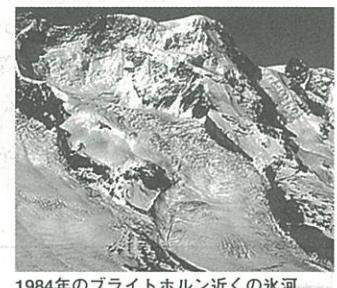
傷ついた地球を救うため、一体、今の私たちに何ができるのだろう？

温暖化によって引き起こされる数々の問題に心を痛めたアル・ゴア氏は、人々の意識改革に乗り出すべく、環境問題に関するスライド講演を世界中で開き、地球と人類の危機・温暖化問題を世界各地で1000回以上に

も渡り訴えてきた。

ゴア氏は訴える…

「私たちが日々の暮らしの中で小さな努力を重ねることで、地球を変えていける」と。「それぞの問題は日常生活の中でつながっており、車の排気ガスを減らしたり、自然エネルギーを取り入れることで、事態は確実に改善されていく」と。



「不都合な真実」私もお薦めします！

エフエム滋賀パーソナリティ 中野栄美子さん



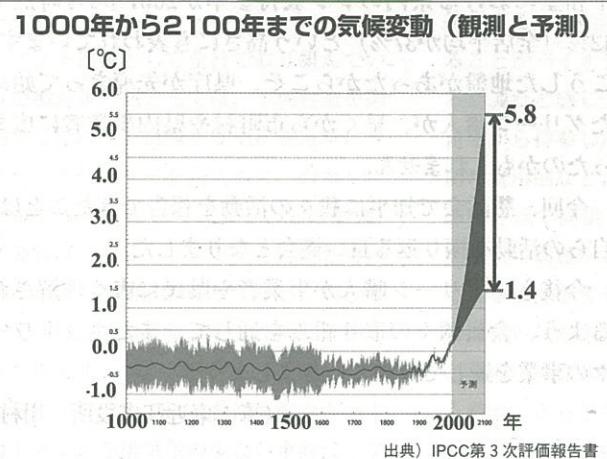
地球の変化は目に見えにくく、危機感を感じられませんが、この「不都合な真実」は見ている人が実際に映画の中で講義を受けている様な臨場感を味わいながら、遠く離れた場所も含めた地球の変化を感じ取ることができます。この映画を見て感じたことを、ラジオや滋賀GPNの活動を通して広げていきたいと考えています。

滋賀県内に数ある環境活動団体の中でも滋賀GPNの活動は、多くの県内企業や自治体で構成されているため、取り組む一歩が大きいと思います。グリーン購入は全ての人の身近な生活に取り入れることができ、中には、既にグリーン購入をしていても、そのことに気づいていない方もいらっしゃると思います。「環境に良いこと」＝「自分の健康に良いこと」です。グリーン購入について理解していた

だくことで、そこから個々の取り組みがますます広がるのではないかと考えます。

私自身も、エコバッグの持参、地元産のものを選ぶなどグリーン購入を心がけています。加えて、水道の蛇口は必要最低限しかひねらない、自宅だけでなく勤務先、外出先でも電気を消して回る（笑）など、自分の6%をいかに減らすかということを常に意識しています。

このような小さな取り組みでも、皆でやれば大きくなります。誰もが、それぞれのライフスタイルに合ったエコな暮らしを「無理せず続けること」が大切ですね。



私たちにできることを考えてみましょう

- 白熱電球を電球型蛍光灯(CFL)に交換する
- 冷暖房を夏は約1°C高めに、冬は2°C低めに設定する
- エアコンのフィルターを清掃・交換する
- 電気製品を購入する際には省エネルギー対応モデルを選ぶ
- 使っていない電気製品のスイッチを切る
- 家屋の気密性を高める
- 家庭でのリサイクルを心掛ける
- 再生紙利用商品を購入する
- 木を植える
- 過剰包装商品を購入しない
- 徒歩や自転車、公共交通機関の利用などでマイカーの走行距離を減らす
- 車を買い替える際には燃料効率の良いモデルを選ぶ

などなどこれらは全て、製品やサービスの、あるいは電力の「グリーン購入」なのです！

私たちが地球のために出来る小さな第一歩が、ここから始まります。

「今、大きく変える挑戦をしなければ、後でとんでもないツケを払うことになる」

（2007年度滋賀GPN総会、イオン上山静一さんより）

あなたは地球のために何に挑戦しますか？

（筆：瀬田アーバンホテル 片岡）

大切なのは「行動すること」と
「伝え、広げること」です。

グリーン購入でストップ地球温暖化！
～10月はグリーン購入キャンペーン月間です～

※会員の皆さんの自主的な取り組み強化・見直しをお願いします。

※「環境にやさしい買い物キャンペーン」を、県・環境にやさしい買い物キャンペーン連絡会議と連携して実施し、地域にグリーン購入の理解促進を図ります。

皆様のキャンペーンへのご参加・ご協力を、よろしくお願いいたします。

環境にやさしい買い物キャンペーン 実施スケジュール(予定)

<イベント>

「環境にも、おサイフにもウレシイ！
「エコなお買い物」教室」



9月22日（土）13:30～15:30
野洲文化ホール（小劇場）にて
漫画家・赤星たみこさんを中心としたトークショー

<店頭啓発>

実施日	時間帯(予定)	店舗名	所在地
10月 1日(月)	10:30～12:00	シーダー21	大津市
	14:00～15:30	西武百貨店大津店	大津市
10月 2日(火)	10:30～12:00	ユーストア松原店	彦根市
	14:00～15:30	バリヤ	彦根市
10月 3日(水)	10:30～12:00	グルメシティヒカリ屋瀬田店	大津市
	14:00～15:30	コープせせ	大津市
10月 4日(木)	10:30～12:00	アヤハティオ堅田店	大津市
	14:00～15:30	イスマヤ堅田店	大津市
10月 5日(金)	10:30～12:00	マックスバリュ八日市店	東近江市
	14:00～15:30	西友八日市店	東近江市
10月 9日(火)	10:30～12:00	マツヤスーパー矢倉店	草津市
	14:00～15:30	ロイヤルホームセンター	守山市
10月10日(水)	10:30～12:00	Aコープ新旭店	高島市
	14:00～15:30	平和堂今津店	高島市
10月11日(木)	10:30～12:00	西友長浜楽市店	長浜市
	14:00～15:30	フタバヤ近江店	米原市
10月12日(金)	10:30～12:00	スター東近江店	栗東市
	14:00～15:30	近鉄百貨店草津店	草津市
10月15日(月)	10:30～12:00	丸善石部店	湖南市
	14:00～15:30	スーパーハズイ水口店	甲賀市
10月16日(火)	10:30～12:00	アル・プラザ野洲店	野洲市
	14:00～15:30	ドラッグユタカ南草津店	草津市

<啓発イベント>

10月 6日(土)	9:30～17:00	近江八幡サティ	近江八幡市
10月 8日(月・祝)	9:30～17:00	アル・プラザ水口店	甲賀市
10月13日(土)	9:30～17:00	ビバシティ彦根店	彦根市
10月14日(日)	9:30～17:00	ジャスコ西大津店	大津市

Report 1**嘉田由紀子滋賀県知事と、滋賀GPN幹事との懇話会 2007年4月26日**

1999年に設立された滋賀GPN。県との連携をさらに深め活動の充実を図ることを目的に知事との懇話会の場を持ち、幹事役員約30名が参加しました。まず、設立の経緯や会員数、活動内容を各担当から説明し、知事からの質問に答える形での意見交換となりました。



ご存知の通り、滋賀県内GPNの会員数は400団体を超え、全国の会員数約2,900のうちの大変大きな割合を占めています。知事は、なぜこれほど滋賀県で活動が広がったのかということが重要なポイントだと捉えられ、この点について熱心に質問されました。

参加された企業の方からは、ISO14001取得に伴ってグリーン購入の取り組みを始めたことや、グリーン購入の実績公開による企業イメージの向上を図られていること、

企業間取引で環境対応製品でないと買ってもらえないといったこと等が挙げられました。しかし、社会全体で環境に配慮することへの理解は浸透しつつあるものの、グリーン購入をあらゆる事業主体で実施することは、まだ難しいのが現状のようです。

滋賀県の消費者は、環境に関する意識が高く、それは平和堂における県内のレジ袋持参率が2007年4月時点で42%（全店平均が37%）という高さにも表われています。こうした地盤があったからこそ、県庁が先導的で始めたグリーン購入が、早くから市町村や県内事業者に広まつたのかもしれません。

今回、懇話会で知事に我々の活動を報告できたことは、自らの活動を振り返る良い機会となりました。

今後も、グリーン購入が事業者や県民に広く理解されるよう、会員個々の取り組みを通して、またネットワークの事業を通して進めていきましょう！

（筆：東近江市役所 川村）

Report 2**グリーン購入セミナー 2007年7月3日**

グリーン購入実践ノウハウと国における取り組みの現状を学ぶセミナーを開催し、38名にご参加いただきました。まず、GPN（全国ネット）事務局の長谷川健一さんより「グリーン購入の意義、環境に配慮した商品の選び方について」というテーマでご講演いただき、続いて、環境省環境経済課 課長補佐 原田和幸さんより「グリーン購入法と、わが国の取り組みについて」と題してご報告いただきました。講師のお話が終了した後には、参加者による

活動の情報提供の場も設けました。企業、行政、主婦、学生と幅広い層の方にご参加いただけたことも成果のひとつとなりました。

**Report 3****グリーン購入実践プラン滋賀登録制度 GPプラン滋賀**

2006年度からスタートした「グリーン購入実践プラン滋賀登録制度（GPプラン滋賀）」は、滋賀県からの委託を受けて滋賀GPNが運営しています。グリーン購入の実践を宣言した中小事業者の方々を、滋賀GPNがGPプラン支援プログラムにより支援させていただくという制度で、今年度は158事業者が登録されました。登録事業者は、県のグリーン入札参加資格の対象となる「環境配慮事業者」として登録できるというメリットもあり、昨年度の1.5倍以上に増えました。

また、今年度から新たに「Step 2」がスタートし、取り組みのレベルアップを目指して18事業者が進まれました。Step 2登録者には、オフィスのグリーン購入に加えて、事業用の購入（仕入れ）品についてもグリーン購入すること、顧客や取引先にも働きかけていくことなどが求められます。

登録事業者の増加、Step 2スタートにより、県内のグリーン購入に取り組む事業者の裾野がさらに広がることで、市場への好影響が期待されます。

エコに学べ！**日々の行動を通して環境保護を推進！**

ヤマト運輸株式会社

数多くの車両を使用して事業を営むヤマトグループにとって、地球温暖化・大気汚染防止対策は最優先のテーマです。私たちは、環境問題への取り組みが今や地球規模の課題であることを認識し、日々の行動を通して環境保護を推進しています。

ヤマト運輸として全社で取り組んでいる環境対策の例としては、車両台数を抑制するために市街地や住宅密集地域にサテライトセンターを出店させ、台車や自転車で集配することによるCO₂の削減、低公害車（ハイブリッド）と低燃費車両（軽車両）を集配車両の主力とし2012年度までに25,000台導入する計画などが挙げられます。

滋賀主管支店では、普通集配車両の主力トラックを排気量の少ない車両にシフトすることで、燃費の向上も目指しています。滋賀独自の取り組みとして、全国のヤマト運輸の中で唯一、使用済食用油を精製（リサイクル）したバイオディーゼル燃料を使用しています。平成17年1月より滋賀GPN会員である油藤商事青山専務の紹介で使用を始めましたが、特に大きなエンジントラブルもなく、現在では担当する集配地区の車両6台にバイオディーゼル燃料を使用するまでになりました。当初はてんぶら油で車両が動く事が信じられませんでしたが、今では

当たり前の事となっています。このバイオディーゼル燃料を使用してから一番感じたことは、今までの車両で気になっていた黒煙が極端に少なくなり、エンジ音も静かになったことです。馬力も燃費も通常の軽油と変わりなく、何より排出するCO₂の削減に一番貢献できていることがバイオディーゼル燃料を使用する意義だと感じています。また、社員が自宅から持参したり、自社の食堂で使用済の食用油など、自分達が使用する燃料を自分達で提供しようと考えています。法律上の問題があるため積極的に回収を行う事はできませんが、地域の方々と密接な係わりがある当社にて使用済食用油の回収ができれば、資源の再利用に大きく貢献できると考えています。

また、当社では物流の仕組みから環境問題への取り組みを考える「子供環境教室」を平成18年から実施しております。小学校に出向いて行う出張型の取り組みで、全国での実績は241校、滋賀県内でも3校で実施しました。当社のウォータースルーレー車両とハイブリッド車を持ち込み、通常の軽油を使用した車両とバイオディーゼルを使用した車両の排気ガスのにおいや黒煙の量を調べる実験をしたり、ハイブリッド車両のエンジンの仕組みを見てもらい、児童も興味深々です。開催した小学校の児童会では、自主的



にてんぶら油の回収を生徒に呼びかけたりしてくれています。開催後の感想文を読ませていただき、環境問題に対して大人以上の関心を持っていることもわかりました。

先日より「グリーン購入評価手法研究会」に参加させていただき、「エコラボはーと・しが」によるコピー用紙の購入も始めました。これからも地域と密着した活動により、環境保護に取り組んでまいりたいと考えています。

お問い合わせ
ヤマト運輸株式会社 滋賀主管支店
栗東市伊勢落720
TEL: 077-553-3041 FAX: 077-553-7079

編集後記

今回のニュースレターを編集するにあたり、担当会議は趣を変え、ダイキン工業さんのご好意で会議室をお借りして開催しました。会議終了後には1時間程度の工場見学までさせていただきました。さすがトップメーカーさん、規模もさることながら随所に生産性・コスト・環境対策を兼ね備えていると納得させられました。

会議では、新メンバーで担当する今年度1回目のニュースレターの発行に向け、記事内容の決定・原稿作成チェック・確認等々の担当の分担など活発な討議となりました。

（筆：小林事務機 和田）

新規入会会員

（2007年3月2日～2007年8月10日）

（株）ラブリーシステムイン、中島商事（株）、（株）文昌堂、ねっこ共働作業所、（株）大宝、（株）西堀、（株）大都工芸、（株）京和自動車整備、（有）キャリアネットワーク滋賀、上西産業（株）、（株）大山石油、（株）ユニアーズ、タツミ薬局、シバタ工業（株）、ヤマト運輸（株）滋賀主管支店、（株）パルス、（有）伸和産業、西日本高速道路（株）関西支社栗東管理事務所、（社）滋賀県社会就労事業振興センター、（株）パールライス滋賀、（株）北河技建工業、（株）渡辺尚文堂、（株）マルト、（株）村田自動車工業所、（有）トップサイン、（株）日本エナジー研究所、ネットツヨタ滋賀（株）、（有）ヤマダ油脂、（株）エフエム滋賀、（株）明豊建設（入会順）

現会員数：415 （2007年8月10日現在）

（企業353、行政29、非営利団体33）

リレートーク Relay Talk

「だから今、グリーン購入」

琵琶湖ホテルの環境への取り組み

琵琶湖ホテルは、春夏秋冬移り変わる湖、湖面を流れる穏やかな風、湖の幸ももたらしてくれる、そんな琵琶湖に抱かれるように建っています。

訪れるお客様に、心のくつろぎや開放感、ゆったりと心豊かな時間を満喫していただくには、目の前に広



がる雄大な琵琶湖やそれを取り巻く環境なくしては成り立ちません。

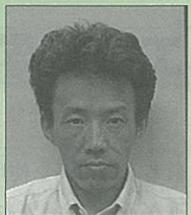
ISO14001認証取得以来、既に定着した電気、ガスの定番アプローチから脱却し、環境を観光資源の一つと捉え、ビジネスレベルで環境問題に取組める仕組みつくりを模索してきました。

地元の人たちと交流を深め知恵を学び、里山を体感するエコツーリズムの提供“里山塾”的実施。お客様にレストランなどで食を味わっていただき、食材の育った環境に思いを馳せ、実際にその環境にお連れして、環境の深い理解と行動に結びつけて頂くストーリーをめざしています。

株式会社 琵琶湖ホテル

総務部／環境設備

釜淵 洋さん



“棚田米”という呼称もお客様の中に定着し、また“里山の食彩”も登録商標され、人との交わりを重視した独自のエコツーリズムを作り上げています。さらに“里山の食彩”をテーマにしたレストランなどで食材の育った環境や行程、生産者の顔が見える安心・安全な食材の使用、食材のブランド化とお客様とともに環境を守っていきましょうという企業メッセージを発信しています。

次回は、瀬田アーバンホテルさんにお願いします。

株式会社 琵琶湖ホテル

〒520-0041 大津市浜町2-40

TEL : 077-524-1259

会員発工コなおしらせ

「地球温暖化防止フェアinびわこ・くさつ」に参加し、温暖化防止行動をはじめよう！

各方面的地球温暖化防止活動を知り、発展させ、行動につなげる場として「地球温暖化防止フェアinびわこ・くさつ」を開催します。子どもから大人まで楽しく学べるブースやステージパフォーマンスをご用意しております。ぜひ参加して、温暖化防止の取り組みをはじめましょう。



◆日時：2007年10月5日～7日10時～16時（5日のみ15時まで）

◆会場：鳥丸半島芝生広場（多目的広場）草津市下物町

《同時開催》3R推進近畿ブロック大会・リサイクルフェア草津・こなん環境シンポジウム・淡海こどもエコクラブ活動交流会他

ご来場は公共交通機関でお越しください。
JR草津駅西口から会場まで無料シャトルバス運行。

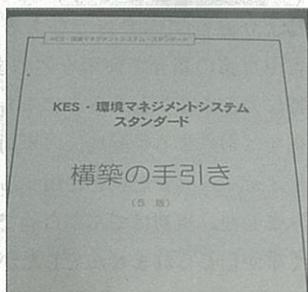
<主催・お問合せ>

地球温暖化防止フェアinびわこ・くさつ実行委員会、草津市
TEL : 077-561-2341

中小事業者におすすめ！「KES」

ISO14001は費用や人手の点から困難という方に朗報!! 「KES」。

国内版環境マネジメントシステムで最大級の登録数（2007年5月末現在1636件）を誇る「KES」は、中小企業の方を対象に作られたため、システムが簡潔で誰にでも分かり易く、取得のための教材も揃っています。登録に必要な書類はごく僅かで、サンプルも用意されております。また、コンサルタントや審査員はボランティアベースで活動を行うため、格安でご提供できます。「KES」は滋賀県をはじめ、多くの自治体、大企業でグリーン調達基準に採用されています。



編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク ニュースレター担当幹事 事務局

〒520-0807

滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎6階

TEL.077-510-3585 FAX.077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

デザイン／うーび企画
印刷／株式会社スマイ印刷工業

このニュースレターは、GPN-GL14「オプセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。
用紙:古紙配合率100%、白色度70%「OKプリント上質エコG100」
(王子製紙) インキレベル2に該当する植物油含有量20%以上
「FUSION G SOYOL」(日本大日本インキ)

